

全国あちこちサイエンススポット1

コスモイル羽咋 – UFOの町の宇宙博物館ですー

星と宇宙大好きな翔太君 こんにちは。

今日は翔太君が「行きたい」と叫びそうなスポット・能登半島学校にあるコスモイル羽咋の紹介です。

おじさんは桜前線を追いかけて能登半島へ。北陸新幹線の開業でにぎわう金沢からレンタカーで北へ走りました。

まずは、千里浜なぎさドライブウェイ、前にも来たことがあるところなのですが、ここは国内でただ1つ80kmにもおよぶ砂浜をドライブできるところなのです。打ち寄せる白波を横目に、なぎさを走ります。「砂にタイヤを取られないか」と思うでしょうが、そんな心配はありません。砂の粒子が細かく海水を含んで固く締まっているからだということでした。

途中で休憩、おいしそうな匂いがしてきたのでお店に入りました。白貝、サザエなどを焼いてもらえます。「お勧めは白貝だ」とのことで、さっそく焼いてもらいました。おいしかったです。話がそれてしまいました。ごめん、ごめん。

海岸から離れて少し走るとロケットがそびえています。横の大きな建物には「コスモイル羽咋」と書いてあります。「これはいったいなんだろう」と入ってみました。旅行といえば、いろいろと下調べをして、行く先を検討し、行程表を作って出かけるのですが、ここは入っていませんでした。

「こんな施設があったのだ」と入館料を払って入り、まず目についたのが「ヴォーストックカプセル」、これは旧ソ連の宇宙船で1960年代にいくつも打ち上げられたものです。

最初に、これで宇宙を飛んだのがガガーリン、1961年のことでした。帰還後、彼が「地球は青かった」と語ったのが印象に残っています。

このカプセルには、「これは実際に飛行し、宇宙から帰還した実物です。大気圏への再突入の際に摩擦によって表面が焼けてしまっています。

帰還用として一人乗りで、機械船と切り離されて大気圏に再突入します。高度6000mで、このカプセルから飛行士が飛び出して、カプセルと分離します。カプセルと宇宙飛行士はそれぞれパラシュートで地上に帰還するようになっています」という説明があります。なるほど、近づいてみると大きな傷がありました。



このボストークによって最初の有人飛行が行われたことで、アメリカとの競争が激しくなり、月面への飛行までが可能になっていったのです。

ところで、「どうして羽咋市にこんな施設があるのか」、広い展示室を見て回るうちにその理由が分かりました。なんと羽咋の町には、昔、UFOがやってきたという言い伝えがあるそうです。このことから、町おこしの1つとして「UFOの町・羽咋」を売り出しているということでした。

3階にはプラネタリウム型の映画館コスモシアターがあり、宇宙、星座、科学などの番組が上映されていますが、時間がなくは入れませんでした。

最後に、この写真、トイレの標識、これが宇宙人なのです。面白いでしょう。(平成28年4月・小6の翔太君宛て)



○スポットの案内

所在地は、石川県羽咋市鶴多町免田 25、電話は、0767-22-9888、毎週火曜日が休館日です。